

# がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

## 1. 事業の具体的内容について

### (1) 自治体における取組

#### ① 協議会について

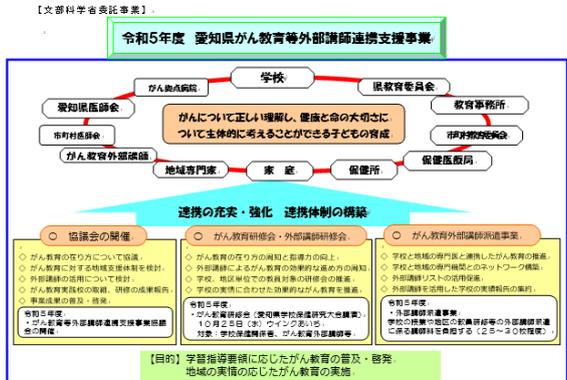
##### 1. 構成員

がん教育等外部講師連携支援事業協議会委員 15人  
(内訳)

県医師会1名、がん拠点病院医師2名(緩和ケア・疫学研究)、がん患者会1名、県保健医療局1名、大学准教授1名、中学校校長1名、高等学校校長1名、中学校養護教諭1名、高等学校養護教諭1名、小中学校PTA代表1名、高等学校PTA代表1名、県教育委員会3名

##### 2. 開催時期、検討内容

第1回協議会	令和5年7月14日(金)	第2回協議会	令和6年2月9日(金)
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画及びその内容等の説明</li> <li>県のがん教育の取組状況等の説明</li> <li>がん教育の推進に向けての意見交換</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業報告</li> <li>成果と課題</li> <li>外部講師向けの動画配信について</li> </ul>	



#### ② 教育委員会としての取組

##### ア がん教育研修会

がんについての正しい知識及び理解を深め、実践につながる機会をつくり、各学校でさらに具体的な取組につなげるため、教職員、がん教育外部講師を対象にした研修会を行った。

《日 時》 令和5年10月25日(水)

《場 所》 ウィンクあいち大ホール

《講 演》 「がん教育の模擬授業と解説 ～解説編 2023～」

《講 師》 NPO 法人 がんノート 代表理事 岸田 徹 氏

《参加者》 小・中・高等学校教諭または養護教諭約300名、がん教育外部講師15名  
がん教育等外部講師連携支援事業協議会委員

※愛知県学校保健研究大会講演と兼ねた

##### イ がん教育等外部講師派遣事業

・学校や地域の実情に応じたがん教育の推進を図るため、学校での授業や講演、地域の教員研修等に申込みのあった学校(地区)にがん教育外部講師を派遣した。

・保健医療局の協力により作成した「外部講師リスト」を県内の公立学校に周知し、活用により、地域の専門医と学校間のネットワークの構築を目指した。

《派遣事業期間》 : 令和5年8月23日～令和6年1月12日まで

《派遣先》 : 32学校(小学校21校、中学校7校、高等学校3校、特別支援学校1校)  
4地区(教職員対象研修会)

##### ウ 研修や教材の周知、事業成果の普及・啓発

文部科学省主催の研修会や教材の周知、及び学校保健関係者等の研修の機会に前年度の事業の様子や教育委員会のウェブページに掲載していることを周知し外部講師の活用促進を図った。今後も事業成果の普及に努めていく。

#### ③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

・毎年、県保健医療局から、がん診療拠点病院などに所属する医療従事者のうち、がん教育にご協力いただける医師・看護師など約140名を対象にしたリストの提供を受けており、今年度は中学校・高等学校に加え、小学校にもリストを提供した。

・県保健医療局主催の「県がん対策部会」の事務局として県教育委員会から参加し、第4期愛知県がん対策推進計画作成に関わり、「学校におけるがん教育」に関する事項について説明し、検討を行っている。

## (2) モデル校における取組 (一部記載)

実施校実施日 【外部講師】	実施事項
瀬戸市立品野中学校 10月27日 【医療従事者】	2年 保健講座「知っておこう、がんのこと ～大切な命を守るために～」 1か月前に保健体育の授業で学んだがんについて、医療従事者である外部講師から話を聞くことで更に理解を深めた。また、がんを身近なものとして捉え、予防のために自分は何をすべきか考える機会とした。
豊田市立竜神中学校 11月7日 【医療従事者】	全学年 学校保健委員会「がんを知り、いのちについて考えよう」 外部講師より、がんの仕組みや特徴など話を聞くことで、がんについて正しく理解し、予防につながる生活習慣や早期発見の大切さを学ぶとともに、自分や家族などの健康を考える機会とした。
稲沢市立大里東小学校 11月9日 【がん経験者】	6年 保健講座「がんについて知ろう」 「いのち」「健康」「生きる」をキーワードに、外部講師の経験談や思いを聞き、がんという病気について理解したり、生きることや家族や身近な人の大切さについて考えさせたりする機会とした。
半田市立岩滑小学校 11月10日 【医療従事者】	5・6年 学校保健委員会「がんについて知ろう」 外部講師より、がんについての基礎知識や予防、検診の大切さについて、話を聞いたことで、がんについて正しい知識をつけることをねらった。また、クイズを取り入れたことで、全員参加型の学びとなり、健康的な生活を送る生活習慣についても考える機会とした。
愛知県立古知野高等学校 11月20日 【医療従事者】	1年 特別活動 「がんについて考えよう」 がんと生活習慣は関係が深いことから、自らの生活習慣を振り返り、生涯にわたって健康に過ごす意識を高めることをねらった。定時制生徒は学校外の社会と接する機会が多いため、がん共生社会の中で生きていく上で必要な正しい知識をつける機会とした。
弥富市立大藤小学校 12月11日 【医療従事者及びがん経験者】	6年 体育「がんについて知ろう」 外部講師の医師から話を聞くことで、児童がもつ怖いイメージのがんについての基礎知識を学び、予防のための生活習慣を見直すことをねらった。また、がん経験者から実際の治療や生活の様子などについての話を聞くことで、がんを身近に捉え、自分や周りの人ががんになったらどうするか考える機会とした。
愛知県ひいらぎ特別支援学校 12月14日 【医療従事者】	中学部・高等部 保健体育「がんについて考えよう」 外部講師より、がんの進行や検診の大切さなどの話を聞くことで、がんについて正しく理解し、今後の健康的な生活について考えさせる機会とした。事前に外部講師にアンケート結果を報告し、講義内容の精選を図ったことで、より生徒の理解を深めた。
一宮市立大志小学校 12月20日 【医療従事者】	5年 総合的な学習の時間 「がんについて正しく学び、自分や大切な人のためにできることから考えよう」 外部講師と担任のTTで指導を行った。映像資料の活用によりがんについての正しい知識を学び、外部講師が関わったがん患者さんの話から、健康と命の大切さに気づかせるとともに、自己の生き方を考える機会とした。
みよし市立黒笹小学校 1月11日 【医療従事者】	6年 学校保健委員会「がんを知ろう！～がんの知識と命の大切さ～」 外部講師の医師から話を聞くことで、がんは誰でもなる可能性があることや早期発見のために検診が大切であることなどががんについて興味・関心をもたせ、がん予防に取り組む姿勢や生活習慣の大切さ考えさせた。
豊田市立五ヶ丘小学校 1月12日 【がん経験者と そのご家族】	6年 総合的な学習の時間「がんとともに生きる ～今 私にできることは～」 6年生で行う「いのちの学習」に「がん教育」を位置づけて、困難を抱えながら夢をもって力強く生きる若い外部講師の心の持ち様や生き方を通して、命の大切さや生きることの尊さ、自分のこれからの生き方について考えさせた。
豊田市立梅坪小学校 1月12日 【がん経験者】	6年 学級活動 「がんについて知ろう～がんの授業を通して健康や命の大切さを学ぼう～」 がんは誰でもかかる可能性があり、早期発見すれば治りやすい病気であることから、定期的ながん検診が重要であることに気付かせ、外部講師の生き方を通して、自分の生き方もみつめる機会とした。

### (3) その他

#### 外部講師を派遣した地区の教職員研修

実施日 【外部講師】	実施事項
稲沢市養護教諭研修会 8月23日 【医療従事者】	「子どもたちと一緒に考えるがん教育について」 学校保健活動の推進者である養護教諭が、がん教育の理解を深め、実践につながるように、講義やグループワークを通じて、がんに関する正しい知識や学校でがん教育を行う際の配慮事項等について学んだ。配慮事項については、事例をもとにグループワークを行ったことで、児童生徒と保護者に対する対応について、具体的な言葉がけについて、イメージをもたせた。【参加人数：市内養護教諭 54人】
名瀬地区保健体育研究大会 11月22日 【医療従事者】	「がん教育について」 実際の学校での指導の経験を踏まえながら、がん教育の基礎知識や、がんに対する考え方の変化、医療現場からのがんの実際について話を聞き、自校で行うがん教育で子どもたちに何を伝えたいのか考える機会となった。生活習慣病のひとつとして取り上げられてきた「がん」だが、確実に予防しても複合的な要素で発症するのが「がん」であることを学んだ。【参加人数：教職員 60人】
愛知県立高等学校保健研究大会 12月8日 【がん経験者】	「がんで考える。自分の生き方やミライ。」 がんの正しい知識や命の大切さへの理解を深めることをねらいとして、外部講師より、がんの体験談や、実際に学校での指導経験や児童生徒の感想を踏まえながら、がん教育に関する効果的な授業展開や配慮事項について学んだ。また、がん体験者だから話せる治療の実際や退院後の生活などについても話を聞き、具体的なイメージをもたせた。【参加人数：教職員 231人】
東浦町学校保健部会研修会 12月12日 【がん経験者】	「がんになったからこそ気づいたこと ありがたくない形で現れたありがたいもの」 がん患者の理解や共に生きる姿勢を育てるために大切なことを学び、自己の生き方をみつめることをねらいとし、外部講師より、がんになった時の気持ちや病気との向き合い方など話を聞き、がん体験者の生き方に触れた。また、講師が実際に学校で行ったがん教育での様子や児童生徒の感想を聞き、自校で行うがん教育を考える機会とした。【参加人数：教職員 231人】

## 2. 事業の達成度について

### (1) がん教育研修会

#### 《成果》

- ・ 県保健医療局の協力を得て、医療機関やがん患者団体へ研修会を案内し、がん教育を実践している外部講師やがん教育に関心のある方々、がん教育等外部講師連携支援事業協議会委員にも参加していただくことができた。
- ・ 効果的な指導にするための外部講師との連携やカリキュラムマネジメント、そして指導上の配慮事項など、がん教育に取り組むにあたって必要な内容を網羅する形でお話していただいた。また、講師による模擬授業を行ったことで、自校での授業のイメージを膨らませ、やってみようと思意をもたせる機会となった。

### (2) 外部講師派遣事業

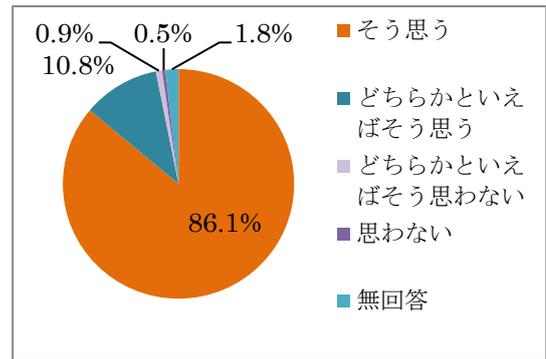
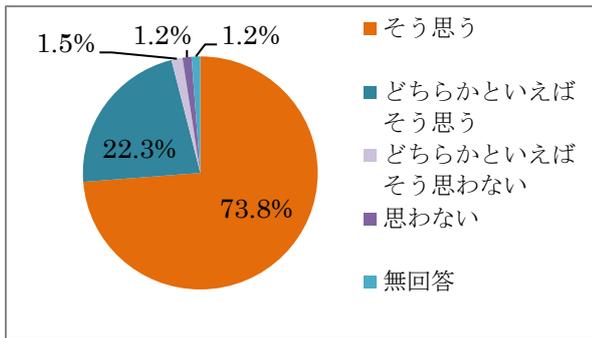
#### 《成果》

- ・ 毎年、県保健医療局から「外部講師リスト」の提供を受けている。外部講師一人一人に、講師の講話可能な内容（がんの基礎知識、予防・検診、緩和ケア、理解・共生、生き方体験談、保護者向け）が記載されており、今年度は「小学生向け」を追加し、中学校・高等学校だけでなく、小学校にもリストを周知した。
- ・ 本事業を利用して外部講師と連携したがん教育を実施した学校は、昨年度に比べ7校増加した。
- ・ がん教育の前後に実施したアンケートによると、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」と回答した児童生徒が約73.8%から約86.1%に増加した。また、「日頃から、バランスの良い食事や運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」が58.1%から73.7%に、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」が55.2%から73.9%に増加した。
- ・ 児童生徒の授業後の感想には、「限りある命を大切にしようとする気持ち」や「大切な人ががんになったら自分になにができるのか」などの言葉があり、知識だけでなく、がんを自分ごととして考え、生き方を見つめる機会となった。

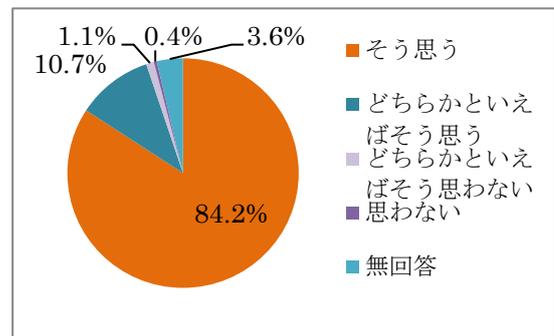
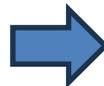
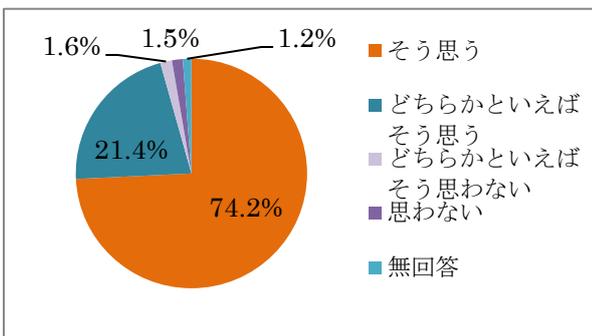
〈がん教育外部講師派遣事業 事前事後アンケート結果より〉外部講師派遣事業実施校

■ そう思う   ■ どちらかといえばそう思う   ■ どちらかといえばそう思わない   ■ 思わない

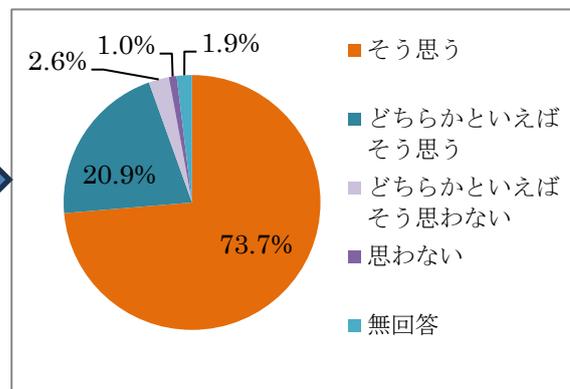
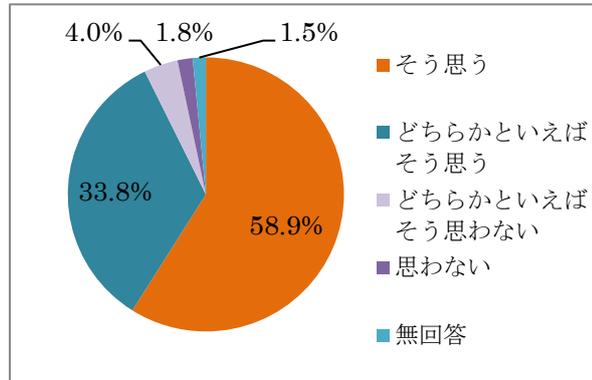
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



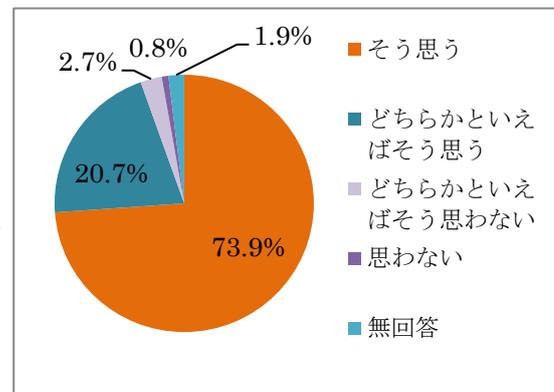
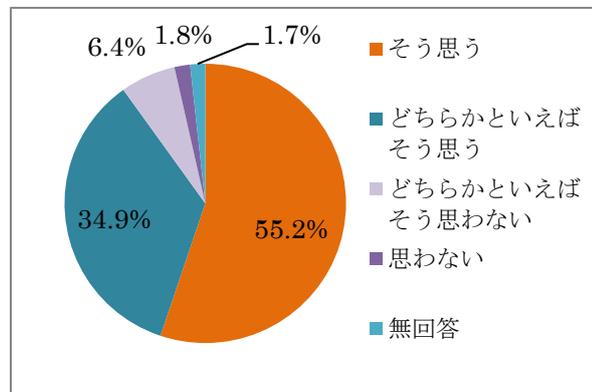
b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ



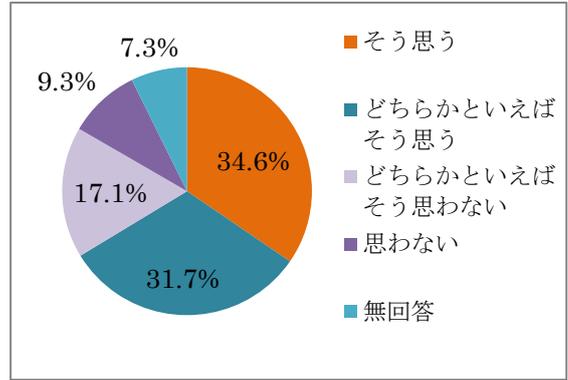
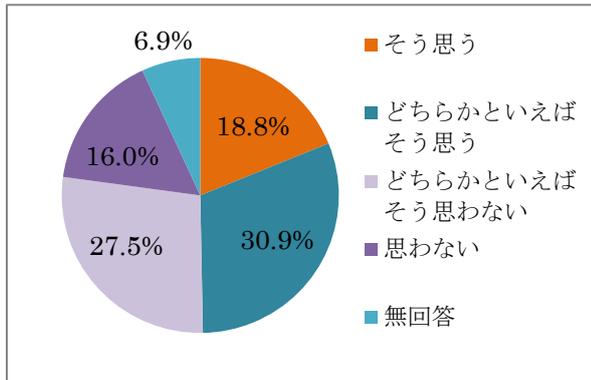
c 日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



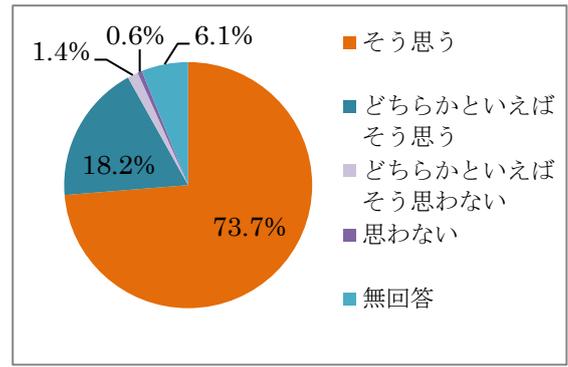
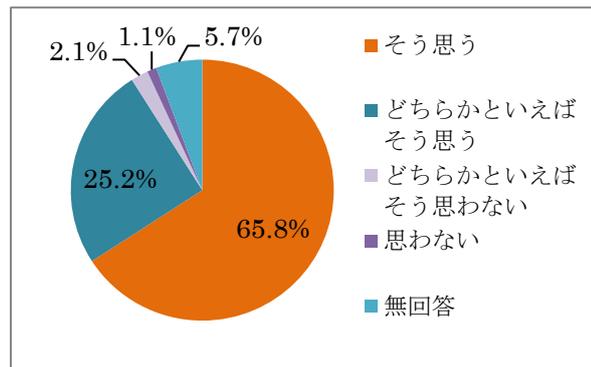
d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



e がんになっても生活の質を高めることができる



f がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい



### 3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) がん教育研修会

- ・教員の働き方改革が求められる中で新たな研修を立ち上げることは難しく、今年度は愛知県学校保健研究大会と兼ねて研修会を実施した。来年度以降は、既存の研修である「学校保健講座」の4つの講義・演習のうち、一つを「がん教育」と位置づけ、研修会を実施する予定である。
- ・今後も、県保健医療局の協力を得て医療機関やがん経験者関係団体に研修会を案内し、外部講師の質の確保につながる研修を行っていく必要がある。

(2) 外部講師派遣事業

- ・外部講師と連携したがん教育を実施するにあたり、効果的な指導には事前の打ち合わせや「学校におけるがん教育」についての外部講師の理解が欠かせない。そのため、学校が主体となった打ち合わせがスムーズに行えるよう、県教育委員会が作成した事前打ち合わせシートや外部講師向けの動画を周知していく。
- ・事業を利用した学校からは「行ってよかった」という報告があるが、県全体としては外部講師を活用したがん教育に取り組んでいる学校はまだ少ない。今後も研修等様々な機会を通して、実施校の成果を周知し、外部講師を活用したがん教育の推進が浸透していくよう図っていく必要がある。

### 4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・がん教育の実施率は高いが、外部講師の活用までには至っていない学校が多い。県保健医療局より提供を受けた医療関係者の「外部講師リスト」や実施校の成果などを周知し、がん教育の推進を図っていく必要がある。
- ・今年度、外部講師向けに「学校におけるがん教育」についての動画を作成した。第2回協議会で委員からいただいた意見をもとに修正を加え、令和6年7月までに完成させる。